

KUNST ARZT では、9 年振り、2 度目となる岡本光博の個展を開催します。

本展は、日本統治時代の台湾において、崇め奉ることを強制された神道に関するプロジェクト作品と、現在も“民間信仰”として自発的に崇め奉られている“日本人やモノ”取材して作品化した連作から構成します。プロジェクトや撮影は 19 年前ですが、この“神に対する受動と能動のカタチ”は、現在の宗教、国家の在り方についても考察することができるように思えます。

(KUNSTARZT 岡本光博)

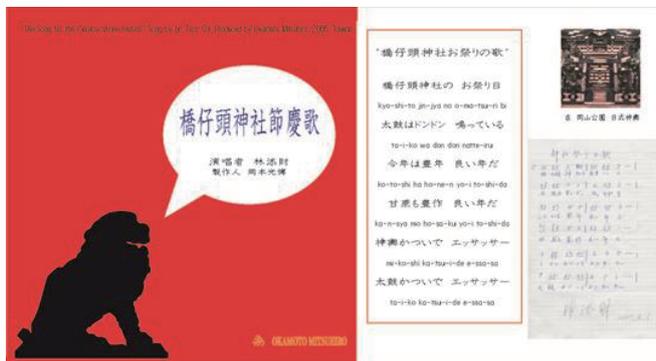
1968 年京都生まれ。1994 年滋賀大学大学院修了。ドイツ、インド、台湾など複数のレジデンスプログラムに参加後、2012 年京都に KUNST ARZT を開廊。「天覧美術 (2020)」、「デザイン美術 (2015)」などのキュレーション展、「バッタもん」や「ドザえもん」のように俗語のイメージを問う試み、著作権や表現の自由にかかわる問題提起も積極的に行う。eitoeiko「ラブアンドピース (2023)」、「あいちトリエンナーレ 2019 表現の不自由・その後」、MoNTUE 北師美術館(台北)「美少女の美術史 (2019)」など現在までに国内外の多くの展覧会に参加。



NS#284 日式石燈籠再建 (橋頭神社境内跡地、台湾)  
2005  
2005 年 11 月 4 日に日本統治時代に石燈籠のあった場所に復元を完了。  
7つの石燈籠部分の内、3つは実際に当時使われていた遺石を使用、他は新たに制作した。  
日本統治時代の神社を写した2枚の写真と当時を知る人々へのインタビューを元に、神社跡地を確定し、散在していた神社遺物、新たに制作した欠損部分と組み合わせ、石燈籠等、神社の一部を復元した。  
「靖国神社問題と同じだ!」という戦後台湾に渡ってきた外省人たち、  
「日本との交流史、土地の歴史を伝える為に賛成」という日本の教育を受けた老人達を両極に、マスコミ、政府をも巻き込んだ論争となった。

2024 年 9 月 17 日 (火) から 22 日 (日)  
12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT  
605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F



NS#273  
橋仔頭神社節慶歌  
2005  
CD

演唱者 林添財  
録音日期 2005年8月1日  
録音地点 橋仔頭文史協會庭園  
演唱時間 34秒

日本統治時代の橋仔頭（現、橋頭）において、「お祭りの歌」として当時の日本人、台湾人に親しまれた日本語の歌がある。橋頭にて、「日本統治時代」を知る老人と会い、その内の何人かはこの歌を口ずさんで下さった。その中で、林添財さんの歌は元音楽科の教師という音楽的下地の上に彼自身の郷愁を込めた想いがしっかりと伝わってくるものであった。橋頭の歴史の1ページいや、日本台湾交流史の1ページとして、この林添財さんの歌声が長く後世に伝わることを願って。



NS#281  
日本神6 乃木將軍  
2005  
写真、中国式額



NS#279  
日本神4 日本軍軍艦  
2005  
写真、中国式額

日本神

当連作は、日本人を神として祀る台湾の廟を訪ね、そのご本尊を撮影した写真から構成するものである。母が日本人である鄭成功の部下であった吉原將軍、日本統治下における田舎の一巡査であった義愛公、米軍に撃墜されたパイロットの飛虎將軍など、神格化された日本人の職業や時代背景はまちまちである。複雑に絡み合ってきた日本と台湾の交流の歴史を感じさせる。

(週刊金曜日2006年10月20日号より 連載「珈琲破壊」039)